

防災行政無線戸別受信機の購入補助します

大規模地震やいろいろな災害に備え、防災行政無線を屋内でも聞き取りができる戸別受信機の設置を推進しています。

戸別受信機を設置または更新される方には、1世帯1台分に限り規定の補助をします。

補助対象者
町内に住所を有する方
町の指定する戸別受信機を設置する方

町税などの滞納がない方
ただし、事業所などは対象外です。

補助金額
戸別受信機設置に係る経費4万5,000円の2/3(3万円を限度)を補助します。

また、設置場所の電波状況により屋外アンテナが別途必要となった場合は、同じく経費7,350円の2/3(4,900円を限度)を補助します。

補助金は、設置完了後(書類審査後)の振込みとなりますので、一時的に経費を全額負担していただくこととなります。

申込期間 6月10日(金)～6月30日(木)(八ガキの場合は、当日消印有効)

申込方法
防災課または出張所窓口で申し込みの場合
備え付けの申込用紙に記入、押印して提出してください。
八ガキで申し込む場合
「防災行政無線戸別受信機購入申込」と明記し、世帯主の氏名、住所、電話番号を記入してください。なお、忘れずに押印してください。

郵送先 〒250-0398
箱根町総務部防災課
受注生産のため、決定後の取り消しはできません。

募集台数 28台(申込が募集台数を超えた場合は抽選)

設置予定 8月下旬
設置場所などは、業者との打ち合わせが必要となります。

【戸別受信機】
戸別受信機には録音機能があり、最新の放送内容を自動的に1件録音します。
寸法 幅約24cm×高さ約13cm×奥行約7cm
重量 約1kg
電源 家庭用電源および乾電池
照会先 防災課 ☎5・9562

宮城野下河原公衆便所が完成

町へ来訪される観光客などの利便性を考慮し、このたび、宮城野支所前バス停隣に完成した箱根登山バス宮城野営業所の施設の一角に、公衆便所を設置しました。

この公衆便所の入口看板は、日本語・英語・中国語・韓国語の4か国語で表示されています。利用時間は、7時から20時30分までです。

照会先 産業施設課
☎5・9568

町有宅地分譲情報

(5月25日現在)

湯本後山分譲地



No.9(奥) 10(手前)

No.11

区画	地積(平地/法地)・地下式車庫の有無	平成17年度分譲価格
No.9	150.18㎡(118.10 / 32.08)・無し	16,668,000円
No.10	134.93㎡(132.49 / 2.44)・無し	18,385,000円
No.11	217.58㎡(100.55 / 117.03)・有り	16,872,000円

いずれの区画も随時、申し込みを受け付け、先着順に譲受候補者を決定します。申込資格・特約事項など詳細については、分譲要綱や分譲のしおりをご確認ください。分譲要綱・申込書類は財務課および出張所で配布しています。

申込・照会先 財務課 ☎5・9563

広報でめぐる

箱根トキメキ

時間旅行

昭和43年11月1日 第125号から

皆さん、町の木、町の花、町の鳥をご存知ですか。それぞれ、「ヤマザクラ」、「ハコネバラ」、「キツツキ」です。

今回は、なぜヤマザクラが町の木になったかを紹介いたします。

(記事から抜粋)
町が、明治百年記念事業の一つとして、広く町民の皆さまがたから募集してきました「町の木」に、「ヤマザクラ」が選ばれました。

「町の木」の制定は、町民の総意で決めようと、二ヶ月半にわたって募集しました。この間に応募された投票総数は二千三百七十通となっています。

審査は、得票数の多かった上位三種類のヤマザクラ、ヒメシヤラ、モミジの中から選ぶこととして、箱根の気候風土に適し、広く普及性を持ち、そして町民に親しまれ、郷土の誇りとなり町のシンボルとなるいろいろの要件をもっとも備えている「ヤマザクラ」が決定したものです。

亀井町長は「町の木」が決定して次のようにのべています。

「ヤマザクラが町の木に決まったことは結構なことである。これからは観賞樹の植栽をはじめ、いろいろな機会をとらえ

て箱根全山いたるところに植え、など普及して観光客にも喜んでいただくようにしていきたい。さらに緑の箱根、誰からも愛される箱根にしていきたい」

このように町の木は町民皆さんの総意で決まりました。

3月下旬には、仙石原でヤマザクラなどの広葉樹の植栽を行うなど、決定当時の願いが脈脈と受け継がれています。皆さんも町の木、町の緑を大切にしてください。



まちかどレポート

技への挑戦

第1回目 ろくろ細工職人 田中一幸さん(湯本)



第1回目は、湯本のろくろ細工職人・田中一幸さん(72歳)です。湯本でお土産屋さんを営みつつ、ろくろ細工ですばらしい作品をつくっている田中さん。ろくろ細工職人の父からいところへ、そして田中さんは中学を卒業後、そのいとこの下で腕を磨き、ろくろ細工の技術を受け継いできました。

最近でも全日本こけしコンクール会長賞受賞(5月6日表彰)という洗練された技術力を大いに発揮しておられます。また、

町立郷土資料館にも田中さんの「七福神組子」が展示されています。

ほかに「三十六組子卵」はまさに芸術です。大きな卵の中から次々と小さな卵が出てくる様子はまさに圧巻。一番小さな卵はわずか2ミリほどの大きさです。これだけで、相当の技術と根気が必要とする作品だとわかっていただけるでしょう。



三十六組子卵

材料は楓で、硬く丈夫なのでろくろ細工に向いているとのこと。なぜなら三十六組子卵はその名の通り、木を卵型に削り、かつすくすく仕上げなければ

ならない大変な作業だからです。そして上下でしっかり閉まらなければならず、繊細な作業が必要です。卵の完成に約一か月、木を乾燥させるのにさらに数か月が必要です。

そしてコマ。小さなコマを棒状の木からあつという間に作りだしてしまいます。お店に行けば、わずか数ミリのコマや風変わりなコマを作るところを見せただけでしょう。

このようにすばらしい腕をもっている田中さんですが、現在跡継ぎがおらず、後継者問題には頭を悩ませているそうです。

箱根といえば奇木細工と言われますが、箱根ろくろ細工もすばらしい伝統技術です。そんなろくろ細工も三十六組子卵も姿を消してしまうのはさびしいことです。

そこで田中さんは皆にろくろ細工を知ってもらおうと教室を開くことがあります。子どもたちにもコマの色塗りなどは好評のようです。比較的ろくろ細工は初心者にも親しみやすいので気軽に参加できると思います。

ろくろ細工のすばらしさにふれるために、皆さんも田中さんの教室に一度足を運んでみてください。(まちかどレポート 浅野尚栄)